阿蘭陀外科明鑑抜萃

目録

一 附骨疽
一 多骨疽
一 石疽
一 緩疽
一 石榴疽
一 疔疽

一脫疽
一風毒疽
一風瘡
一風瀑
一鶴膝風
一塘風
一鵝掌風
一瘰癧

一骨槽風

凡十五篇

目錄終

瘡亦過涼藥骨肉間凝滞則成骨瘡始發作悪作熱無汁而痛無時徹于深骨髄過甚悪則痛大也按是則應於骨庶肉微急洪如肥狀多足太陰脾大陽胃陽明胃經若能受是症或環跳穴痛不止者宜防生附骨疽也

○阿蘭陀司是症始發時如風邪有寒熱難漸々動身似傷寒而亦別也醫師多誤為脚氣故内外相違而多為亡一生廢人無痊平物是症平肉瘡肉無別身体手足硬堅痛甚徹骨者危或瘡不熱亦不赤兼膿危或口開後膿薄薫臭不痛止不瘡癒日月久傷不食進口渇息短者尤平物浮發膿熟甚難救唯宜浮發治療專當正

○バツハス方

一 フロウリスカモメイル　五銭
一 スミツメリロウト　五銭
一 フロウリスミルバ　五銭
一 ラアデキスサルデイ　十銭

一 ブランダアコ

○右細剉水見合入壱煎去糟

一 セイモンヘチケレイツユ 十銭

一 セイモンリーチ 十銭

○右二味粉前入煎汁ニ如調凍含庫物能診考而中程ニハ
ゼリコン壱錢之圖其上徒ハツバス當可巻置越成膿
能々見立可ニ口明平或初発有膏藥付ユンフラストムズ
ラゲニアス・デヤキロシコムニノス・イングユントデヤルデイヤ右

五銭

等ヲ分凍含演ベ木綿ニ可付之口間後有上膏藥用壱口間
山膿水者ラブメントヲ可當平

○ラブメント方

一 アルワイ 二銭

一 レジイヌ 三銭

一 カヲイル 一銭

一 メラ 三銭

一 ヒツトリヨウロシクルイデ 五分

一　フロウリスロウヂ　六銭

一　ブランドヒイニヨ　百六十銭

○右煎如常シリンガ以洗漏中食物鶏牛肉等可用焉
実是症多有朽骨能々去其骨見仕懸在左篇平矣

○多骨疽

○夫多骨疽之症有何痼症或久瘡不久痊有深膿水恒出不止有薬應者是皆必在朽骨其骨不出無痊平

○阿蘭陀曰是症先宜去有関ワツヒリニアトハセリコシ雑合而可付之去悪有関見朽骨其時抜骨抜去正骨可捻粉薬平

○粉薬方

一　ラアテキスイリヨウス　一銭

一　アルワイー　一銭

一　メラ　一銭

○右極末而骨肝捻患其上メイーイヤニテキスティビンヲ塗可当之悩是症治療時於不風入所療之平

○石疽

○夫石疽之症於何處出生始發時身色硬如石不切通一不膿血出乃如疔肉矣

○阿蘭陀曰歟宜早治先可截平截様太意也脩肉正肉之間切見定可截之ヨニフラストラソフヤアタ付置一時可其後宜截之不可忘生肉截若誤為之則忽血走痛物虚々難治矣

○阿留麻奴須曰不截而治良平ヨシフラストラシコロシヨンムズラゲニブスメリロウト等合可述付越或膿或散若為膿疽可治之矣

○緩疽

○夫是症於何處出痛物也初發状軟痛疹頭不硬似風毒瘡類也

○阿蘭陀曰是症初發先ムズラゲニブスメリトウト雑合煎木綿ニ可付敬膿下ハゼリコンヲ付ケ上膏薬右同前平為膿治方如常矣

○石榴疽

○夫石榴疽多肘之上生二一寸可上疽物也初者如粟粒根大色赤硬猶石而後破度中赤如石榴皮破粒々而流出黄水久難痊平

○阿蘭陀月初發先ツコンセイクメ以隨順截破而出悪血ヘシセリコシニテレメンテイー十ヽ或ハテキスティヒシッ加メイチヤ墐貼薑其上ニテヤハルニヽ可ヒ打或ハ三火灸ス有効廣粘著者ニヘリヒツトリヨウロニヽバゼリコニ加メイチヤ墐而付薑去悪肉悪血以而可加ヘ夫々療治ス矣

○兵疽

○夫兵疽始起者原皆血毒也其生狀創有如粟粒平亦不生有痛平或腫堅有痛乳皆能手定生指在色赤亦在皆平白虚也亦熱也絶甚痛甚ヒ譜平次第痛強至指株腐行其節々脱落矣

○案赤在代指五指更々痛者也月蝕毎月一指更々痛者也俱皆癰疽疫毒地榆甘草等分水煎洗而若可以ヘ左、

見仕懸平

○阿蘭陀日昇症難痛甚忍止最痛ニ不堪平或初發其後
赤如痛燗大痛者

一 インクエントカンフラアト　大
一 カンフル　中
一 スウトホウト　小
一 ヲヽリロザアロン　見合
一 辰砂　小

一 輕粉　中

○右緩雜合痛處頻可擦之其後無刺ランセイタメ以刺破
指頭腸特取出寺血緩急亦不色赤痛ニ

一 ゲンブル　一錢
一 タルラメイル　一錢
一 ヘイフル　一錢

○右如粉磨合温之濱木綿ニ付平貼痛ニ

○亦方

一 タルラメイル　二銭
一 ホウノク　二銭
○右凍合緩而頻可塗之平
○亦方
一 ヒツトリヨウロンコラアル　一銭
一 アルユン　一銭
一 スバンスクルウ　一銭
一 酢　見合
○右温可洗也不分赤白用之平
○亦方
一 不詳赤白虚實付之矣
一 蜘蛛　但去ル千足ヲ　三匹
一 黒砂糖　五分
一 ラスリルンビリコウルン　見合
○右磨合凍付忽痛止産也
○脫疽

○大脫疽之症極虛惡也乍疽之重症也初發見漿熟赤白
甚痛先ハツハス可當平ハツハス見江疽病門江
○阿蘭陀曰是症極而急症也朝生夕死平輕日標疽重日
脫疽眼前腐行如反手裡平始如粟粒痛甚早有無膿也
燥貫難急尚甚儘紫黒變而節々有脫落漸甚毒入腹而
死平始發痛甚時先宜下用指薦ラブメントヲ可當也

四分

○ラブメントノ方

一 ツツヒリニアト

一 アヽビラメント

一 アルユンクルイデ

一 ホウルスアルメンヤ

一 アントモウナクルイデ

一 カルコ

一 ブランドヒイニヨ

○右合不汞出樣煎之頻洗患疽後

○付藥

四分

十六錢

八錢

八錢

八錢

一外

一 メイニ　二銭
一 ブランドロウト　四銭
一 アンテモウチクルイーデ　三銭
一 ベレスヒタアル　一銭
一 トシイヤベレベラアート　三銭
一 ラアビスカラメントアリス　二銭
一 イニグエントカンフラアド　四十銭

○右細末混合シ其患部ニ塗付上ニテヤハリ二ヨリ付ケ亦燥キ甚痛時ヲ
アデキスケリヨウロン、熱灰中ニ蒸焼温熨為シ熱演ベ木綿付テ摩
而抜去其熱毒時ニ立地痛止ム也其後者イニグエントバゼリ
コンニテレメンテイナ微加平メイチヤ塗テ而貼之上ニムスラゲニデ
スヲ付テ而補其虚潤其腐燥ヲ如此或見合ラブメントヲ以去リ
悪血ヲバセリコンニイケビシヤアコニンカベレスヒタアルヲ加付其
腐截而後ニテキスティヒニ以充塡スベシ

○ラブメント方

一 ラアデキスチイナ

一撮

一 フウリアブセンテヨム　一撮
一 フロウリスカモメイル　一撮
一 アルワイ　五銭
一 ベレスピタアル　三銭
一 メラ　四銭
一 レシノーヌ　四銭
一 ブランドビイニヨ　一合

○右水入二五合一煎ジ之去レ渣漉洗也

○風毒瘴

○夫風毒之瘴症是病多シ世ニ以テ其ノ始起ル乍ニ久風邪隠伏皮肉骨節間一而以テ生スル多シ乍ニ手足一初發在ル悪寒發熱頭痛多ク似ル脚氣一大抵腹足ニ發ル山ニ初速ニ不レ能レ瘴漸漸瘴如二陽山一而痛甚平○阿蘭陀曰風發三症各有リ其ノ甚ノ蓋風瘴風濕二症乃新邪平但風瘴甚ク色不レ赤身色而生ス有リ病肉屬レ冷也風濕甚ク色赤痛甚ク病皮肉屬レ熱也風毒原昔風而適レ被レ為二他病一故漸生ス故外發不レ速初發不レ高不レ赤悪寒發熱心氣首醫而

不鮮其病骨節筋脉乃屬虚寒是毒至久及遠年宿燥發
者變為付骨疽也
○治療之法初發唯宜發散專攻痼物先消一合酢六夕合是
熱而以漬布帛重疊搭之茲痼頻々更換風毒邪氣宅
穴拔去而其後イングエントバゼリコンヲ塗付痼物一盃其上
エンフラストムズラゲニブスヲ可打也是仕懸以多可散也若
越不散ハツハスヲ以可別膿散之ニツ也
○ハツハス方

一フウリカモメイル　一撮
一フウリメリロウト　一撮
一フウリロウヅ　一撮
一フウリメンテ　二撮
一タルラメイル　二合

○右酒五合酢三合水二合入之如恒一日二度三度可當
之是無利
○亦方

一 フウリニルバ　一撮
一 フウリメリロウト　一撮
一 フロウリスカモメイル　一撮
一 フウリメンニノ　一撮
一 フウリロウザ　一撮
一 ラアデキスサルデイヤ　剉　一撮
一 セイモンリイヲ　一撮
一 セイモンヘヲケレイツ立　一撮

一 ゲンフル　搗碎　十銭
一 タルヲメイル　五合
○右水七合酒五合入之煮盡是上様ニフウリルウタノ末ツ一撮加如恒可當之右越不膿散コトニヨツテ不膿散コムルニヨスル以牽浮下イングヱントバゼリコンヲ塗速可膿若兼バ冷膿ラインングヱントバルサムバゼリコンヲ下ニ可壇膿如常是症依處有湯山風病瘡症專ニハツバスヱ之也
○風瘡

○夫風痙之始起皆是風邪則病新邪也
○阿蘭陀曰惣風痙之症其色身色如瀋痙陽山詳診考同
風毒篇平然風痙浮見風毒泥形也
○治療之法初發先ツイングエントバゼリコンヲヘリカモメイルヲ加交
合而痙ニ一盃堪之上ニエンプラストムズラゲニブス可打干或
在以温散住懸亦在以油平ヲヘリイベリ
コン等分雑合之温可堪之右仕懸以若不散ハツバス可當
平

○バツバス方

一 フウリルウヲメ　一撮
一 ラアデキスサルデイヤ　一撮
一 セイモンヘチケレイツエ　一撮
一 セイモンリイヲ　一撮
一 フロウリスカモメイル　二撮
一 忍冬　二撮
一 ゲニブル　五銭

一 タルラメイル　二合
一 ブランドヒイニヨ　三合
一 アゼイテ　二合

右一合如常煉リ合可當之ヘシ以牽浮可膿膿後治方如恒

○若是儻不散者早コムヘス以牽浮可膿膿後治方如恒也

○風濕

夫風濕之症風邪以濕締也故其色光痩而見赤熱為痛唯宜祓風邪速濕導下也

○阿蘭陀曰是症先初發以漢藥而可散之若不散早可以温散仕懸平蓋インヂヨエントバゼリコン同カンフラアト等分合之以是或ラヽリカモメイルラヽリイベリコンヒラヽリロザカロン右等分合之温付之是則温散也若越不散不消ハツハス可當焉矣

○ハツハス方

一 フウリアルトミジヤ　一撮

一 フウリルウダ 一撮
一 フロウリスロウザ 二撮
一 フロウリスカモメイル 三撮
一 メルラメイル 三合
一 ブランドヒイニヨ 二合
一 アゼイテ 三合半
一 ゲンヂル 三錢
一 フウリメンテ 粉後入之 二撮

一 ラリイヘリコシ 十錢

○右如恒拵而可當之矣

○若是不消速峯汚之可膿為膿治法如常半

○鶴膝風

○夫鶴膝風之病多是仗血虛以生或風邪隱胃節而燥精血枯肉而筋成鶴膝唯宜濕神氣血以生於津液為專也

○阿蘭陀曰是症惣出足膝之症也如其狀節大而後先收平故名曰鶴膝風也蓋治療先宜以藥湯溫吿而拔其邪

求精血頻津液道上平但シ有症兩異也濕熱膝痺赤裏濕
身色冷矣

○藥湯方

一 フロウリスカモメイル 三撮
一 フロウリスロウサ 三撮
一 フロウリスアルトンカ 三撮
一 フウリアフセンテヨム 三撮
一 スミツメリロウト 三撮

一 デレイ 三撮
一 フルベイニ 三撮
一 カラナアトブロム 三撮
一 ブランドヒイニヨ 四合

○右水入三七合且氣不出山煎而後可糟去但ブランドヒイニ
ヨハ後入也

○右煎藥入桶且中へ足入足ニ一時可温之其後ヲリカモメ
イルヲリイベリコニ各等分合之温之痛處宜磨付半毎

日如是則良久可正治也此仕懸無利亦有一術平

○方

一 メラ　一分
一 ミスチキス　一分
一 ノウトムスカアド　一分五重
一 薬香油　一分
一 鯨白蝋　五重

右各細末而調交別三分以白湯用之残二分火薫而

薫煙向鼻膠ハツパス可當也

○バツパス方

一 エンプラストデヘンスイビン　十五銭
一 ヨリロザアロン　七銭
一 コロクスラリエンメアリス　三分
一 ゲイルハニヤアヨル　四枚
一 タルヲメイル　一合
一 牛乳味　一合

○右以緩火煉合冝當之惣體脉專在寒虚濕熱是方冝
㊀治熱症專當焉

○亦方

○當歸虚濕黑者一半

一 ヨンブラストコメリノウリヨ 大

一 ヨンブラストメリロウト 大

一 ヨンブラストムズブデニデス 中

一 半油 中

一 テレメンテイー十 中

○右煉合木綿厚攤之貼脉若帶濕者下ニヲリバツノアレス注之上ニ右膏藥可貼之也是症常用食可當焉

一 鷄 鳩 鶫 鶉

○右好物也

一 鹿 猪 雀

○右禁物也

○煉風

○夫凍風之症俗曰霜燹ト平敢雖不難為不知其大要平難采正効故多與是一論蓋此症始起原既冬月雪中或衝冱業逢而寒邪氣血相戰生血熱以成皆是寒邪瀑毒氣血相搏義也以多不獲寒藥不獲熱藥惟切不外以平和藥也

○阿蘭陀曰是症初發甚痒故不得止以爪掻之時既濁汁流出而痛痒或赤偏痛也當是時洒々悪寒翕々發熱是則寒瀑含瀑熱験也或破潰或痒爛成瘡含膿類多在此也初發色赤甚痒是時先宜以洗藥

○ラブメント方

一	ゲンブル	五錢
一	メンテ	一撮
一	フロウリスカモメイル	半撮
一	ソウト	一撮
一	アルワイ	二錢

○右入水煎扨様ブランドビイニヨ汝計入此後頻洗之平

其後拭去水氣ヲシリーアゼイテヲラヽリカモメイル合之温之
頻々可塗之是諒一症定法也若越無利ヘツテハシナアヱル
アルユニヲ依加可塗之餘亦倣是乎或カンフラアドアルユン
儻加之在塗也亦既破含膿或有痛類越專イングヱン
トバゼリコニ主之若有真イケビシヤアコン加之可付之
或含微膿時アルニシス類主之也亦一症月雪切俗謂
勝也尤難差有奇妙方也

○方

一ベツキ　二十錢
一ミスチキス　八錢
一人油　見合

○右堅煉之入瓶是諒良方也

○鵞掌風

○右鵞掌一症俗是目石榴蟲皆是生ス手足裡也其原此血
瀑毒也

○阿蘭陀曰是症初發其後痛或含瀑毒或含膿在痛者

治療ランセイヲ以テ一々ニ刺シ是出ル水其跡ニイングヱントイケビシヤアコン中ブランドビイニヨ大ズウトホウト少可加温之冝シ洗フ之平其後ヲヘリハンナアヱルシヲリアゼイテ各一銭アルワイ五合右煉合セ可付之若是不産ラブメントヲ可用也

○ラブメント方

一 早稍蔓　二撮
一 フロウリスカモメイル　一撮
一 水尭　五合

○右煎去糟毎日洗之其跡イングヱントテヤルデイヤヲ可付也亦持腰含潅ヲ甚痛ホウノク塗止痛其後

○ラブメント方

一 ラアデキスチイナ　五銭
一 フロウリスカモメイル　五銭
一 ブランドビイニヨ　三合
一 アゼイニテ　五夕
一 アルワイ　三銭

一 阿仙藥 三錢

○右煎去滓溫之洗其跡

一 ヲリテレメンテイナ 五錢

一 アルワイ 三錢

一 ヲリアセイヲ 三錢

一 ヲリハンナアユル 三錢

○右煉合可付之是謂至當之論也

○瘰癧

○夫瘰癧之核症相類世者甚多生耳前後者名曰骨槽風頸邊缺盆腋間降出根深硬者名曰瘰癧胸腋間降如蛤如馬刀者名曰馬刀瘡身躰千足間其形硬生於一ツ者名曰結核數連相列須經年走者名曰流注形一二而小者名曰梅核根淺和者名曰痰核也凡瘰癧之症皆是由怒氣憂思過多氣上逆而風熱邪氣搏於肝經氣結以結核蓋怒氣過多時傷肝既肝主筋縮結畜而為瘰癧收陽膽多氣收血病也不守禁忌展及陽明飲食羙厚釀生氣積鬱氣也

改手足收陽主之也

○阿蘭陀目是症皆頸項間結聚成核乎始如豆粒漸々如梅李累々大小無定或有潰熱皆耳上下左右冒在淺深虚實之別乎是症初發ヲ誤テセイタヲ以テ截破以金瘡仕懸可治焉乎

○愚案阿蘭陀一流之産法雖知是未見其治術如茲破術於和東難望用也然於阿蘭陀以破術常得狸奈案異人醫家遠也專主飲食熱物乎故阿留満奴須先生按和而創千法初發先チイ十忍冬等分水煎恒用焉然虚症而津液燥人忌焉其者忍冬大香附子中煎之入酒用之脊

茶奈外ヲリテレナンテイナシ可塗乎其外

一ヲリカノフス
一ヲリナアガラ
一ヲリカチイル
一ヲリカモメイル
一ヲリイベリコン

一 ヲ、リノクスイーナ

一 ヨンブラストヲシコロシヨン

一 ヨンブラストムズテニブス

一 ヨンブラストコム、ース

一 ヨンブラストメリロウト

一 ヨンブラストバセリヲルホウロム

一 ヨンブラストコメリノウリヨ

一 ヨンブラストアルニンス

一 イングヨントデヤルデイヤ

○右之内量宜加減而可當乖、

○瘧痢生漏久則是日氣痺常流膿水難差平蓋氣痺者氣血之虛痺謂義也氣痺者有淋痺也只宜補氣血平排鬱散氣救療專內外主之平若氣鬱則既為慶病而不治為不救痼病故強藥示忌之也

○愚謂瘧痢之症宜布藥輕為灸也其後醫閒緒緩言油以灸大忌若誤感之為痼疾ロ常以和解温補油膏ヲ也

ヲ、リカノフステレメンテイ十等分ニ合セテ上ニヲシコロシヨ
ニ付之常得効也

○藥灸方

一蒜（ニンニク）　磨碎　一牧
一川芎　粉末　五分
一山梔　粉末　五分

○右一合和如糝丸ニ一大銭厚サ核ノ之上ニ附ケ其上ニ灸之ヲ見度
更ニ之平

○實生人者可下宜其泥毒ヲ痊去勢ヲ健（ソコソク）（スヘトカ）也

○フルガアシヤ方

一テバルバ　十銭
一コロクスラリエンメアリス　三銭
一テアデキスチイナ　二銭
一ヲクリカンギリ　三銭
一ベレスヒメアル　五分

○右細末磨合一度自リ二銭ニ至ル二銭ニ卦（フス）時水ニ以用焉

○骨槽風

○夫骨槽之瘡症多ク是風痰毒氣久隱筋骨而以生ズ半皆耳前頤項之邊生初發悪寒發熱如瘧若重則口塞喰食難瘡處筋骨痛漸ク瘡ヒ口中有ル入時不食死也

○阿蘭陀曰是症初發先ダランノウスコメリノウリヨ水銀昇雜屑木綿ニ付之耳ノ上酢若越不散コメリノウリヨムズラ酒等分合之温漬木綿ニ付上越不散コメリノウリヨムズラゲニブス等分合可付之越無利コム〳〵ス可付半膿宜可落

疝常ニヲリスウトアニシトヲ毎服一二匙以治湯服下膿潰後治法如疽也